

SAPPORO 教区 NEWS

第7号

2007年8月10日

発行：カトリック札幌司教区事務局広報部
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10

Tel. 011-241-2785 / ホームページ：http://www.csd.or.jp

全道司祭大会開催

「老いを生きる」を考える

七月三―四日、藤学園セミナーハウスにて、年々参加者が減少する中約四十名の司祭が参加し、『北海道の宣教司牧』について講演と話し合いが行われた。

今回は新たに、七月一日に山鼻教会に助任司祭として赴任したばかりの宋榮峻神父（韓国・議政府教区）、三月に叙階した月寒教会助任司祭の森田健児神父、四月一日から北十一条教会の助任司祭である上原博之神父（フランシスコ会）が始めて参加。

第一日目は、ライヤ神父の司会進行で、地主司教の挨拶、運営委員長の勝谷神父の挨拶があり、講師であるW・キップス神父様（臨床パストラルケア教育研修センター所長、レデンプートル会）に、テーマに則

ペトロ岐部と187殉教者 列福正式に決定

列福式に向けて動き出す！

六月一日に教皇ベネディクト十六世による裁可に伴い列福が正式に決定！列福決定に伴い二日、長崎において「ペトロ岐部と一八七殉教者」列福式実行委員会（委員長：高見三明大司教）を立ち上げ、今後、教皇庁と調整をしながら列福式の準備を進めていくこととなります。



日本で行なわれることが決まりました。教会内外に、殉教者の存在と列福の意味を知らせる貴重な機会でもあり、列福式そのものがはじめて

日本で待っていた列福が決定したことはとても喜ばしいことでもあります。教会内外に、殉教者の存在と列福の意味を知らせる貴重な機会でもあり、列福式そのものがはじめて

日本で行なわれることが決まりました。教会内外に、殉教者の存在と列福の意味を知らせる貴重な機会でもあり、列福式そのものがはじめて



＝参加司祭の集合写真＝



＝講師のキップス神父＝

り講演して頂いた。

キップス神父は、生きることは

- ① 自分に責任を持つこと
- ② 自分が成長すること
- ③ 自分が変わることを語った。例えば、記憶力を維持するための努力など、自分が自分に責任をもつ努力をすることはとても大切なこと。成長することは変わることであり、闘いや苦痛を伴うが、変わらなければ成長しない。成長することに年齢は関係なく、いつでも成長できる。そして、生きるマニュアルはないので、個人個人が自分で自分の「生きることを創り上げていく必要がある」と話した。また、変わることは、歳をとる（とらされる）こと、衰えること、病気になること（自分で

作った病気は、作らないようにする）、死ぬことがある。しかし、誰も死を経験した人はいないので、「死」がどのようなものか語ることはできない。「死の専門家」は、死から復活されたイエスだけであると語った。

死に臨む人に臨床パストラルケアとして我々ができるのは、「変わることを援助させてもらう」ことである。

詩編に「今日神の声を聞くなら……とあるように、「今」を大切にすることが重要である。死に臨む人に生きる刺激を与えるには、自分自身が本（物）者であること、自分が無力であることを認識すること、繰り返し行うことが必要である。

ある死に臨んでいる司祭に「司祭に大切なことは何ですか」と聞いたら、「笑う（微笑む）こと」と答えられた。介護・看護するには、①沈黙と退屈の達人であること ②無力であること―これが力 ③ポジティブな待つ姿勢であること（相手に合わせて接する姿勢、自分の中の考えと自分のメロディーをキチンと持つこと） ④気付き ⑤させてもらうことが大切であり必要であると結ばれた。

講演の最後には、①自分ができること、②自分しか出来ないこと、③今しか出来ないこと、④今始めてできることを各自羅列して、身体的・社会的・心理的・知的・スピリチュアルに分類する分析方法を学んだ。

午後からは、分かち合いを行い、お互いに今を生きることを見つめなおした。

夜の懇親会では、地主司教の霊名のお祝いも行われ、一年に一度の旧交を深め楽しい時間を過ごすことができた。

第二日目は、地主司教からと、各委員会からの報告がなされ今年の大会を終了した。

来道司祭の紹介

宋^{ソン} 榮峻^{ヨンジュン} 神父
(韓国・議政府教区)



宋神父は、六月二十七日に来道し、七月一日から山鼻教会助任司祭として赴任している。

二年前に、韓国教会の海外宣教の動きにに応じて、メリノール宣教会との契約で日本に來日して、東京で日本語を勉強していた。

【略歴】

1957年9月16日 ソウルに生まれる

1989年2月4日 司祭叙階

同年2月からソウルの特洞教会、黙洞教会、千戸洞教会で助任司を歴任

1994年2月からソウル平和教会、玉水洞教会、新亭教会で主任司祭を歴任

2004年6月 新設された議政府教区に異動

教区一般会計の収支報告

十神に感謝

各小教区からの会計報告提出のご協力に感謝申し上げます。三月の年度終了後一ヶ月という短い期間にも関わらず、会計担当者皆様のご協力により、札幌教区の決算報告を、管轄官庁の北海道に無事提出し、報告することができました。感謝とともに皆様にご報告申し上げます。

かかる経済状況の中、皆様からの献金・寄付金等により、二〇〇六年度を無事に終えることができました。全体の中で、宣教活動によって、前年度と変化のあった部分をお知らせいたします。

□教区本部の職員人件費

司祭や修道者の高齢化や召命者の減少などにより、そのニーズが高まっているカリタス家庭支援センターに、昨年度から、専門家の相談員二名を、教区から派遣しました。その分が増額となっております。

さらには、今年から北海

道在住のフィリピン人のケアを中心に相談員の育成にあたる信徒宣教師が二名、フィリピンから来道し協力頂いています。それに伴う人件費や住居費、活動費などが必要となります。二〇〇七年度は特別積立金からの取り崩しで充当しております。しかし、来年度以降はより一層の皆様のご協力をいただかないといけない状態になろうかと思いません。その節はご協力を宜しくお願い致します。

これから、専門的知識をもった信徒の協力と活動力が、様々な場面で、司祭をサポートする形で増加して行くものと思われれます。

収入と主な支出の流れを図式化してみましたので、ご覧下さい。

皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

主のみこころの

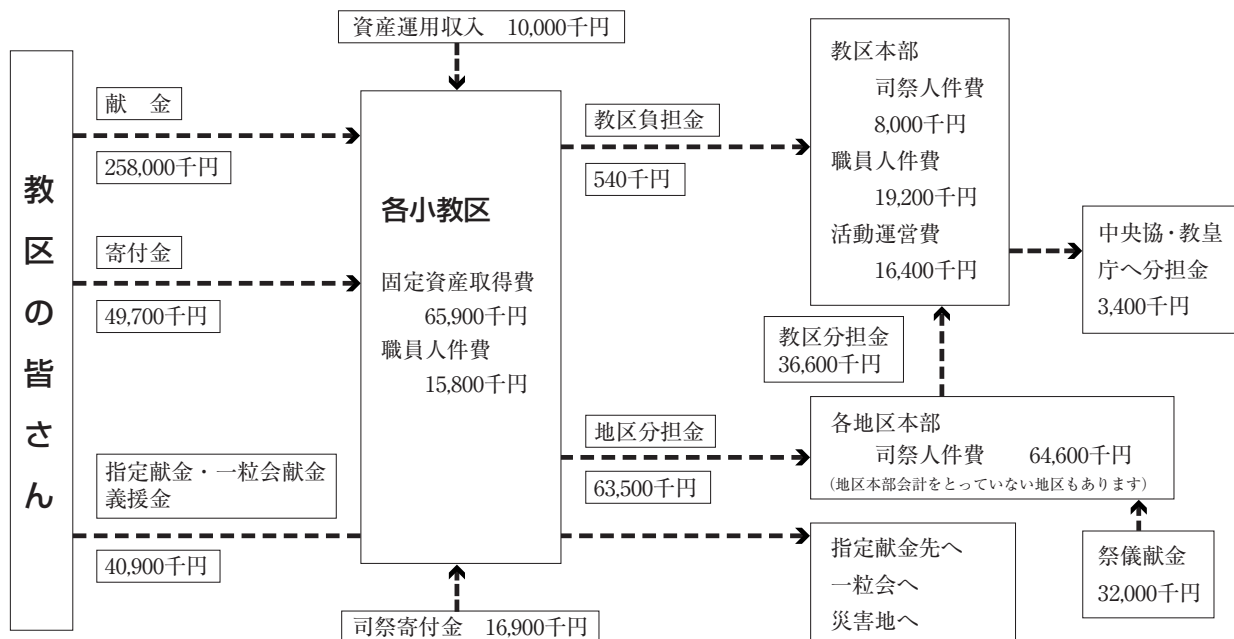
まままに…



札幌教区2006年度決算概況報告

(2006年4月1日～2007年3月31日)

札幌教区の収入・主な支出の流れをご報告いたします。皆様のご協力に感謝いたします。



II 平和旬間 II

日本カトリック社会
司教委員会委員長の
高見三明大司教が談
話を発表！

平和旬間という大切な期
間を迎えるに際し、今一度
平和のために心から祈り、
行動することを皆さんに呼
びかけています。

「思い起こせば一九八一
年、ヨハネ・パウロ二世が
歴代教皇の中で始めて日本
の土を踏んで以来、すでに
二十六年が経ちました。そ

札幌地区宣司評『平和旬間』 ともに祈りましょう！

各地区で祈り
が捧げられる
が、札幌地区で
は、今年も七月
七日(土)から八
月十五日(水)ま
での四十日間を
「平和を祈る四
十日間」とし、
改めて「平和」
について見つめな
おす。七月七日
には、第二十二
回七・七平和集
会、七月十六日

の時に広島から全世界に向
かって発した言葉『戦争は
人間の仕業です。戦争は死
です。』から始まる平和ア
ピールは、今も私たちの心
に深く響いています。しか
も、その内容はまさに今の
世界と日本の現状に対して
まったく変わらぬ大切な
メッセージを含んでいま
す。世界各地で続いている
暴力の連鎖、核拡散の危機、
とてつもない貧富の格差や
環境の破壊など、人間の命
を脅かし平和を壊す動きは

とどまるところを知りませ
んが、このメッセージに応
えて平和をつくろうと努力
している人々がいることは
私たちにとって希望でもあ
ります。なぜなら、戦争す
るのも人間ですが、その同
じ人間がまた平和をもつく
ることができると思えるか
らです。それは同時に、平
和のために来られ、今も私
たちと共に働いておられる
キリストご自身が「平和の
主」と信じることもあり
ます。小教区、各家庭、個
人で平和のために共に祈
り、行動していただけたら
と思います。」

には、円山教会を会場に出
前学習「レイン・宮沢事件
を検証する」が行われた。
平和旬間の行事として、
次の計画をしますので、
皆さんの参加とお祈りを
願いたい。

① 平和講演会

八月十一日(土) 15:00

会場は北一条教会

テーマは「信教の自由と
正教分離」について

講師は、谷大二司教(さ
いたま教区長)

③ 平和行進

八月十五日(水) 19:20

北一条教会から大通公園

西三丁目までキャンドル

行進、その後プロステタ

ントの皆さんと祈りの交
流

※ 「考えよう、靖国問
題。あんによんサヨナ
ラ」を上映

② 平和祈願ミサ

八月十五日(水) 18:00

北一条教会にて

地主敏夫司教の司式

正義と平和の祈り

(札幌地区正平委員会編)

※心を一つにして、共に平
和のために祈りましょう※

神よ

わたしたちを

平和のために働く生け
る道具としてお使い下
さい。

わたしたちに、

貧困や差別そして不正
義のもとでうめき苦し
む人々の声なき声を聞
き分け、

その痛みを共感する力
をお与え下さい。

戦争と暴力が支配する

死の時代を終わらせ、

神の愛と平和そして生

命の喜びに満ちあふれ

た世界を、

ともに築くことができ

ますように。

わたしたちの主イエ
ス・キリストによって、
アーメン。

パイプオルガンの音色に乗って 祈りよ！天に届け！



＝引渡書を掲げる地主司教＝



＝パイプオルガンと演奏者＝

北一条教会(カテド
ラル)では、献堂九十周年記
念事業のパイプオルガンの
設置と、それに伴う床の改
修工事が無事に完了。

七月十六日(月・海
日)十三時から、それを祝
う式典が、地主敏夫司教の
司式で行われた。当日は、
ケルン社の社長をはじめと
する来賓や、修道者、信徒
が聖堂一杯に集い完成を
祝った。

地主司教は、説教の中で、
教会では祈りを天に届ける
手段としてパイプオルガン
は用いられており、上手に
弾いたり、歌ったりするこ
ともある程度必要なこと

あるが、最も大切なのは、
パイプオルガンの音色に、
神様に対する祈りを乗せる
ことが最も大切なことであ
ること。これから、設置さ
れたパイプオルガンがそう
いう意味で大いに活用され
ることを希望し、神に感謝
すると語られた。

十五時から、柿落とし
の演奏会が行われ、聴衆は
パイプオルガンの音色に酔
いしれていた。演奏会の前
には、約一ヶ月にわたるパ
イプオルガンの設置状況を
まとめた映像も紹介され、
参加者から感嘆と驚きの声
があがっていた。



釧路地区の近況

四月二十八日(昭和の日)、釧路地区宣教司牧評議会が開催された。

釧路教会を会場に、午前十時から午後三時まで、テーマは「ゆるし」とし、地区長カリシモ神父さまのみことばの祭儀に始まり、カトリック教会固有の「ゆるしの秘跡」についてのお話を受けて本題に入った。このテーマはさきの三月二十四日、運営委員会で決められたもので、各評議員に東京教区補佐司教幸田和生

著「ゆるしの力」を配布してあらかじめ読んでいただき、読後の感想から

一、そうだろうか?と疑問に思ったところ 二、司祭に質問したいところ 三、強く印象に残ったところ 四、特に教えられた! 気付かされたところ などに分けて司祭と事務局が回答・説明に当たった。寄せられたアンケートから、疑問に思ったところ十二項目、司祭への質問は十六項目、特に教えられた! 気付かされたところ四十一項目などをとりまとめ、出席者皆で分

全国JOCバーン札幌

皆さまの誰でも歓迎します!

今回のテーマは「生きるためにはHow Much? ナンボヤネン」生きるために必要な経費や収入は?

一緒にライフスタイルを考えてみませんか。そして日本全国から集まった仲間と意見や親睦を深め交流し、楽しい有意義な時間を過ごしませんか!

【開催日】 二〇〇七年九月

jocnoi@hotmail.co.jp

かち合った。参加者は六十名ほどであった。

釧路地区宣教司牧評議会では、信仰面の学びに力点をおき、平成十七年は「ご聖体」、十八年は「聖母マリア」をテーマとして評議員以外の信徒にも参加を呼びかけ、本年は「ゆるしの秘跡」で、特に多くの信徒が「現代の罪とゆるし」について学びあうことができたと思われる。

釧路地区宣教司牧評議会事務局 鈴木 英夫

札幌働く人の家 賛助会員募集!

札幌働く人の家担当司祭の谷内武雄神父(山鼻教会主任)は、司祭も高齢化になって、様々な問題が出てきているが、札幌働く人の家の賛助会員の方々も大分高齢化が進み、新たな賛助会員を募っていかなくては、これから活動は先細りとならざるを得ない。それではいけないので、新たな賛助会員へのご協力をお願いしていきたくと語った。

連絡先 札幌働く人の家 〇一一(八五九)二五六七

カリタス家庭支援センター 活動支援のサマーコンサート



八月二十五日(土)午後二時から札幌・北一条教会で、家庭支援センターの活動を支援するサマーコンサートが開催される

支援コンサート実行委員会(委員長 手戸一郎)主催。今回は、マンドリン、フルート、パイプオルガンが演奏される予定。入場料は無料。ミニバザーや喫茶コーナーも同時に開催される。皆様のご支援宜しくお願ひ致します。問合せは、事務局〇一一(二六二)二一八八へ

北海道カトリック幼稚園協議会 第40回記念大会開催

=幼児教育の現場で カトリックの心と生き方を大切に=

七月二十三日 日―二十四日の二日間札幌ガーデンパレスで、第四十回の節目となる北カ幼の園長教職員研修大会が開催。全道から三〇名余りの教職員が集い会場は熱気に溢



に、コングレガシオン・ド・ノートルダムの津田和加子シスター(桜の聖母短期大学生生活科学科准教授)の講演が行われた。津田シスターは、主の祈りと食育の関係を、歯の種類と本数、子どもへの指導などのエピソードを交えながらとても分かりやすく話された。

また、ありがとう(良い点を語る)と、ごめんなき(自分のいたらなかったらなかつた

点を語る)で行う「反省会のあり方」や、相手を攻めるのではなく、自分の気持ちを語る「夫婦喧嘩の仕方」なども楽しく紹介した。夕方五時三十分からは、第四十回を記念する式典が行われ、和やかな雰囲気の中でそれぞれ交流を深めた。

二日目は、四十回の大会の歴史を映像を見ながら、シスター天野のトークを交えて振り返った。司祭や修道者の高齢化が進む中、信徒若しくは未信者の方の園長や教職員が増加の傾向にあり、益々カトリックの精神を浸透させていくことが大切な要素を占めていくものと思われる。今回の研修を生かし、カトリックの心や生き方を、保育の現場で生かしていくことが重要なこととなるであろう。

木内藤三郎神父の資料室が 雪の聖母園の一角に完成!



活動を理解していただく一助となればと願っています。」と語っていた。

また、同職員の田中さんの話では、「私は務め始めて五年ほどで、昔のことはそれ程詳しくはありませんが、訪れた方の中には、万感迫って、資料室から中々出てくるのができない方がいらっしやいます」と話して下さった。

雪の聖母園の創設者である木内神父縁の品々を展示する資料室が整備されたと聞き、過日、訪れてみた。整備にあたった職員の一入である蛭子氏は「旧園舎の取り壊しの際に、しまっていた品々が目の目を見た。上坂園長等と相談して、是非、皆さんにも見て頂こうと資料室を整備しました。展示用のプレートスタンドも、木内神父が彫刻が好きだったのを思い起こしながら、在りし日のことを思い出し、敷地内にあるえんじゅの木を使って、心を込めて作りました。記念の品々を多くの皆さんにご覧頂き、雪の聖母園の歴史と

現在の施設運営には、設立当時とは違った様々な苦勞が待ち受けているだろうが、この資料室を垣間見限り、キリストへの深い信仰と、謙虚に熱く生きることの大切さを改めて考えさせられた。これも神様のみこころなのだろう。…神に感謝。

中央協議会出版部 から発刊!



九月中旬に発行。

過去の英雄物語ではなく、その時代を生々しく生きた殉教者たちの霊性を通して、現代に生きる私たちを神のあかしへと招く内容。図版や写真も多数収録。A5版、68頁、三五〇円



ペトロ文庫から、教皇ベネディクト十六世の「霊的講話集」が二刊発行。二〇〇五には、教皇就任ミサ説教など全三十六講話が収録。

(税込一、〇五〇円) 二〇〇六には、話題を呼んだレーゲンスブルク大学での講演など全七十三講話が収録。(税込一、二六〇円)

教区・各地区の行事予定

| 地区 | 日 | 行事内容 |
|-------|-----------|------------------------------|
| ◆教区 | 8月27日(月) | 教区司祭月例会(花川マリア院) |
| | 9月23日(日) | 国際デー(北1条教会) |
| | 10月24日(月) | 教区司祭黙想会(トラピスト) |
| | 10月6日(土) | フランシスコ会再宣教百周年記念ミサ・式典(北11条教会) |
| ◆札幌地区 | 10月21日(日) | 浅沼正三師納骨式(白石墓地) |
| | 9月29日(月) | 教区司祭月例会(花川マリア院) |
| | 8月8日(水) | 地区宣司評事務局会議(ベネディクトハウス) |
| | 8月15日(水) | 平和祈願ミサ・平和行進(北1条教会) |
| ◆函館地区 | 8月9日(木) | 平和祈禱集会(湯川教会) |
| | 9月2日(日) | 合同堅信式(宮前町教会) |
| | 10月16日(日) | 合同墓参 |
| | 10月6日(土) | 合同黙想会 講師・雨宮慧師(宮前町教会) |
| ◆釧路地区 | 9月2日(日) | 地区信徒大会(釧路教会) |
| | 10月6日(土) | 合同黙想会 |
| | 10月16日(日) | 合同墓参 |
| | 10月27日(土) | 要理講座8 |
| ◆旭川地区 | 8月1日(水) | 各教会サマースクール |
| | 8月5日(日) | 東京・北海道 青少年交流会 |
| | 8月15日(水) | 旭川市内合同墓参 |
| | 9月26日(日) | 旭川市内合同ミサ(旭川5条教会) |
| ◆北見地区 | 9月3日(月) | 旭川市内合同ミサ(旭川5条教会) |
| | 9月11日(火) | 旭川市内教会連絡会議 |
| | 10月22日(土) | 旭川地区信徒黙想・研修会 |
| | 10月23日(日) | 旭川市内合同ミサ |
| ◆北見地区 | 10月30日(日) | 旭川市内合同ミサ |
| | 10月3日(水) | 旭川地区司祭会議 |
| | 10月7日(日) | 旭川地区カトリック大会・百周年 |
| | 10月28日(日) | 旭川市内合同ミサ・合同初聖体 |
| ◆北見地区 | 8月26日(日) | カトリック大会(北見教会) |
| | 10月上旬 | 地区宣教司牧評議会 |

澤田茂神父追悼ミサ

七月十五日(日)午後二時から月寒教会において、昨年七月二十日に帰天されたアシジのフランシスコ澤田茂神父の追悼ミサが行われた。地主敏夫司教の司式で、二〇〇人余りの修道者、信徒が参列し、在りし日の澤田神父を偲んだ。

地主司教は説教の中で、同年代の司教が他界することが増えてきて、神様に生かされていることの本質を見つめなおす、ある意味でよい機会を与えられていると語り、神様のみ旨に従って共に生きていきましよう



メル会において、数多くのカルメルの著作を日本語に翻訳する作業に尽力された。修道生活68年
享年88歳

【略歴】

1919年4月3日 東京に生まれる
1939年4月30日 東京三位一体修道院に入会
1943年10月15日 初誓願

1947年10月15日 西宮創立に参加

1962年11月14日 月形創立に参加

1990年11月14日 十勝創立に参加

2007年5月16日 帰天

◆マリアの宣教師フランシスコ修道会

Sr.ヨハンナ・ベルクマンズ 佐藤 ツヨ

天使病院、天使印刷で長年奉職された。修道生活74年
享年98歳

【略歴】

1909年1月1日 留寿都村で生まれる
1933年12月8日 入会
1938年10月11日 終生誓願宣立
2007年6月4日 帰天

訃報

◆十勝カルメル修道会

Sr.お告げのマリア

林 千鶴子

創立間もない日本のカル

◆殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会 Sr. M・テオフィラ

板垣淑子

看護師の資格と実力を生かし、修道会運営の老人施



設で指導員、施設長として活躍、又、一関、青森、札幌の保育園で保母、園長としても活躍された。花川マリア院の院長を勤められた後、2004年から札幌マリア院で過ごされた。
享年77歳

【略歴】

1930年12月4日 上砂川町で生まれる
1955年3月24日 札幌マリア院聖堂にて受洗
1956年9月15日 入会
1959年8月12日 初誓願
1964年9月23日 終生誓願
2007年7月1日 帰天

※ 亡くなられた皆様の神様の御許での安息をお祈り下さい。

教区の風

神学院通信を拝見すると、今年の神学生は、札幌教区の二名を含めて総勢三十五名。各自有意義な時間を過ごしているようである。通信の中に、神学生に向けてお二人の特別寄稿が掲載されていた。「金祝を迎えて」と題した浜尾文郎枢機卿と、「殉教者に見る司祭の姿」と題した溝部脩高松教区司教の文である。それぞれ、司祭にとって大切なことを訴えておられるが、同時に、信徒にとってもとても大切なことであると考えさせられた。

からが始まり、主イエスのように、関わる相手を選ばないことが司祭の姿。自分の好みによって相手を選ぶのではなく、今現われる相手に謙虚に関わること。受身で仕方なく守るのではなく積極的に恵みとして受け入れてほしい。司祭は万能でなく、限界のある身分で、それを謙虚に受け入れてほしいと結ばれている。

学校の夏休みが始まり、教会学校のサマーキャンプや夏期合宿が行われている。自然にふれ、友達とふれあい、神父や神学生とふれあい、子どもたちは、普段の生活とは違った体験をしていることだろう。

また、溝部司教は、今回列福される一八八名中の四名の司祭の殉教を取り上げている。殉教した「奉げつくす」司祭の姿の実現に触れ、今一度、自分のことを振り返り、生涯をかけて、キリストに恋焦がれて生きる熱い思いがあるのか考へ、決意を新たに、司祭職を燃えて生きることの大切さを勧めている。

ふと立ち止まり、日常生活とは違った生活をすることは、自分を見つめなおす良い機会である。現代にあつて、身体を休めることはとても重要なことである。そして、心を休めることはもっと重要なことである。

私たちが信徒も今、「キリストに恋焦がれて生きている」かどうかを見つめ直すことが必要ではないでしょうか。そして、自分は無力な存在であるが故に、謙虚な気持ちでキリストに倣って生きることが必要であることを見つめ直すべきではないでしょうか。

慌しい生活の中では、神様とゆっくり向き合うこともできないだろう。だからこそ、夏休みなど時間的に余裕のある時に、子どもたちと一緒に、大人の方も、神様あるいは神様が創造したものと向き合い、語り合う時間を持つてみてはどうだろうか。

是非、アジアや太平洋の島々を訪れ、その国の人々と友達になって国際人になってほしい。そして、司祭の召出しは叙階

そうすれば、身体も休まり、心も休むことができるのではないだろうか。神様の創造物である「自然」や「動物たち」の存在意義を改めて考えてみる良い機会にして頂きたいと考える。

(by 風 太郎)

編集子

編集後記